

共生社会を考える

城星学園小学校 六年

矢部 碧子

先日、万博のイタリア館前で、車いすに乗っている日本人とイタリア人の選手の試合を間近で見ました。車いすは固定されていて座ったまま長い剣でぐいぐいと手を伸ばして相手を突きにいくのを見てハラハラしました。手を伸ばすたびに「ガチャン」と固定している鉄板の音がして迫力が伝わってきて、見ていてとても楽しかったです。

私は車いすに座った時にこわい思いをしたことがあります。それは学校の体験授業でのことです。友達に車いすを押してもらったのですが、少しかたむいただけでも後ろへたおれてしまうのではないかとひやひやしました。見るのとはずいぶん違うんだなと思いました。そんな時、新聞で車いすの国際パラリンピック委員会理事のマセソン美季さんが、ある小学校へ訪問し、クラスみんなで車いすに乗っている友達もいっしょにドッジボールを楽しむにはどのようなルールが必要なのかと話し合いをしたら、色々な意見がでたという記事を読み、私も万博で車いすに乗っている人も押す人もみんなが楽しめるようにするにはどうすればいいかを考えてみました。万博はとても広く暑いので、私はまず車いす専用レーンが必要だと思いました。スマホを見ながら歩く人や、よそ見をする人も多く危ないので、大屋根リング下に車いす専用レーンがあれば安心して移動できるのではないのでしょうか。また、各パビリオンの移動には近道があれば良いと思います。

今回私は車いすフェンシングの試合や、学校の体験授業から、万博でも車いすの人を気をつけて見るようになりました。まわりの人の事を考える事は共生社会の第一歩だと思いました。また万博では、フェンシングと車いすフェンシングが同じ場所で交互に行われていたので、同じフェンシングでも色々な見方ができどちらも楽しめましたが、どうしてオリンピックとパラリンピックを分けているのか疑問に思いました。調べてみると『目的と運営主体が異なるため』とありましたが、運営を同じにしていっしょに行うのは可能だと思います。私が大人になったころには、わけへだてなく様々なスポーツを楽しむことができる時代になっ

ていてほしいと思います。